

## よくある質問（小児用）

### 乳歯列の不正咬合

Q 1 歯並びは遺伝すると聞きましたが本当ですか？

A 1 不正咬合には、先天性の原因と後天的原因があります。先天性の原因のなかには、遺伝によるものや遺伝的傾向のある先天異常に伴う不正咬合も考えられますので、歯並びの一部は遺伝するものもあると考えてよいでしょう。しかし、家族性を示すと思うものでも、全く遺伝によらないものや、他の多数の遺伝子の関与や、環境の影響を受けていることもあるので注意が必要です。

Q 2 乳歯の歯並びはすき間だらけで大丈夫ですか？

A 2 乳歯の空隙歯列は、生え始めは普通ですが、乳歯が生えそろう時期には、自然になくなることが多いようです。しかし、時には前歯部に空隙が残ることもあります。永久歯への生えかわりを考えると全く心配ありません。

Q 3 受け口はいつ頃から矯正できるでしょうか？

A 3 受け口の成立要因と、その程度によって開始時期は異なります。一般に、骨格性の受け口は4～5歳頃から可能です。歯槽性あるいは機能性の受け口は、前歯部の生え変わりを利用して治療を始めたほうがよいでしょう。しかし、受け口の治療は長引くものです。思春期性成長期をのがさずに治療すると効果が大きいようです。





Q 4 乳歯の歯並びが悪いと永久歯も悪くなりますか？

A 4 乳歯列と永久歯列の不正には直接的な関連はありませんが、顎骨の成長、奇形あるいは習癖などが原因となっている不正咬合は、その傾向が永久歯になっても残ります。そのような原因がある場合は、そちらの治療や習癖を早めにやめさせる必要があります。

Q 5 前歯が咬み合っていないで大丈夫ですか？

A 5 上下の前歯が咬み合わずに開いている状態なので、口もとにしまりのない顔つきになります。放っておくと発音や食事がうまく身につきません。指しゃぶりや口唇を噛む癖があったらやめさせましょう。また、扁桃腺肥大やアレルギー性鼻炎による口呼吸があれば、耳鼻科での治療を勧めます。

Q 6 歯並びが悪いと正しい発音を覚えられないのでしょうか？

A 6 不正咬合が構音に障害を起こすことはよく経験することです。すべての音に影響があるわけではなく、特定の音の音響（構音）に影響を及ぼします。一般的には、出っ歯では[p、b、m]、[s、z]などが、受け口では、[s]が[t h]になりやすく、開咬では、[s、z、t、d、j、t s]などの音に歪みがあります。

